2010年11月11日 新しい公共をつくる市民キャビネット 共同代表 兼間道子

## 公共サービス改革推進は「地域主権」「補完性の原理」が基本

新しい公共推進会議の趣旨に掲げられた「**官だけでなく、市民、NPO、企業などが積極的に公共的な財・サービスの提供主体となり、身近な分野において、共助の精神で活動する「新しい公共」の推進」**を実現するためには「<u>地域</u>主権」と「<u>補完性の原理</u>」に基づく、地方公共団体と市民・NPOの関係性の再構築が不可欠である。

税制改正が議論される市民公益税制PT 中間報告書においても、「個人住民税の寄附金税額控除について、地域において活動するNPO法人を支援するため、都道府県及び市区町村が国税庁長官の認定を受けていないNPO法人への寄附金を条例に基づき指定することにより、個人住民税の寄附金税額控除を行うことができる制度を創設する。」と記載されており、具体的な条例策定への期待が高まりつつある。

これらを踏まえ、地域主権を推進し、補完性の原理に基づく公共サービス提供を実現するためにも、以下の2点について速やかな推進が急務であろう

- (1) 公共サービス基本法を推進する公共サービス基本条例制定等の検討
- (2) マルチステークホルダーが参画した欧米で実施が進むローカルストラテ ジックパートナーシップ等の検討

「新しい公共」推進会議 資料

2010年11月11日 新しい公共をつくる市民キャビネット 共同代表 兼間道子

教育分野における NPO の活動事例として

## 「NPO 法人 京田辺シュタイナー学校」の取り組み

## 1. はじめに――国会答弁から

「山下委員から新しい公共、特に教育において非常に重要だというお話がございました。誠にそのとおりでございます。(中略) さらに、今お話がありましたように、NPOの皆さんの中で、不登校の方々に対して熱心に頑張っておられる方々もおられますし、今シュタイナーの教育の話もされました。私もシュタイナー教育など大変重要だと思っております。なかなかこういったシュタイナーの学校に対して国としての今日までの支援というか考え方が十分ではないなと歯がゆく思っておったところでもございます。そのような中で、新しい公共という発想で、私ども、こういった彼らのすばらしい、ある意味での高邁な思想に基づいた仕事に対して、政府がそれとなくうまく支援する道を考えるべきだと思っておりました。

そういう考え方の下で、これからNPOの皆様方をできるだけ幅広く、例えば認定ももっと広くしていくことが重要だとも思っておりますし、寄附税制というものを充実させる、それは税額控除だと思っておりまして、政府に支出をする、税金を払うのであるならば、その一部をそのまま、ある大事な、自分としてはもっと価値があると思っているNPOに対して寄附をするんだというような発想が自由にできるような、そんな社会を築いていきたいと思っております。」

(参議院文教科学委員会 議事録 2010年3月30日)

- 答弁で言及された「シュタイナー学校」
- ・ オーストリア生まれの哲学者、ルドルフ・シュタイナー (1861-1925) の教育理念に基づき、特色ある教育(後述)を行っている学校。現在、世界 65 カ国で約 1000 校に増えている。
- ・ 日本では、構造改革特区による特区学校法人立が 2 校、NPO 法人立が 6 校、任意団体 によるものが 2 校、運営されている。そのなかでも生徒数、活動歴で 2 番目の規模をも つのが「NPO 法人 京田辺シュタイナー学校」。

## 2. 京田辺シュタイナー学校

所在地:京都府京田辺市興戸南鉾立94

ウェフ゛サイトアト゛レス http://school.kyotanabe-steiner.jp/

沿革: 1995 年 お母さんたちの手で、毎週土曜日にシュタイナー教育のカリキュラムで授業を行う「土曜クラス」として始まる。

2000年 京都府より NPO 法人として認証。

2001 年 **NPO 法人立の全日制学校**を開校。1~8 年生、生徒数 92 名。

2003年 高等部 (9~12年生) 開設。

2007年 初めての高等部卒業生を送り出す。

2010年 ユネスコスクールへの加盟が承認される。

京都地域創造基金「事業指定助成プログラム」第1期事業に採択。

学校概要(詳しくは添付資料1とリーフレットを参照):

- 2010年4月現在 生徒数 249名 (1~12年生=小学生、中学生、高校生) 教職員数 専任 19名、専科・講師 27名、事務 2名
- ・ 校地は定期借地、校舎は自己所有(全日制開校時に保護者・教師の拠出と 一般からの寄付により建設。2年後に増築。)

## **3. シュタイナー教育の特色**(学校ホームページから)

シュタイナー教育は自分で感じ、自分で考え、自分で行動できる人を育てることを目指しています。そのためにシュタイナー教育では、子どもたちへの深い理解と、独自の体系的な教育を展開しています。

## ■ 芸術としての教育 ― 心が豊かに動く授業

詩で始まる授業、絵から導かれる文字、リズム体験による算数、イメージ豊かなお話や歌ーすべての教科を通して、子どもたちが生き生きと世界と関わることができる芸術的な授業を目指します。また、教育内容と共に教員や親の人生に対する姿勢は子どもに深い影響を与えます。教育は、自らを創造していく芸術でもあるのです。

## ■ エポック授業 ― 集中し、じっくり取り組む時間

同じ教科の内容を毎朝1時間40分、連続して3~4週間集中して学びます。ひとつのテーマのもとに多教 科を融合させ、絵を描き、歌を歌い,じっくりと授業にひたることによって、表面的な知識にとどまらな い深い学びとなります。

### ■ かがやき ― 手紙と詩による通信簿

当校では、点数による評価や順位付けはありません。学年末には、それぞれの成果と課題が表現された手

紙と詩による通信簿が一人ひとりの子どもにおくられます。その通信簿を当校では「かがやき」と呼んでいます。

## ■ 8 年間担任制 12 年一貫教育 — 成長を見守る教員

成長していく子どもの個性を責任をもって見守り、共に歩むために、一人の担任が入学から 8 年生までを 通して受け持ちます。メインレッスン(主要教科)は、担任と専科の教員によって 12 年間を見通して展開さ れます。

## ■ 体験を通して学ぶ ― 頭だけでない、行動につながる学び

手仕事、農業、木工、測量、地質調査、金属加工、製本などの実技と工場や福祉施設での実習が行われます。頭だけの知識でなく、手を通して世界と関われる人間、行動できる人間の育成を目指します。

※ ユネスコスクールとして認められていることが示すように、21 世紀のポスト近代化・ポスト産業化の社会にふさわしい「自ら感じ、考え、行動する人間」を育てる ESD (持続可能な発展のための教育) のモデルとなる実践に取り組んでいる。

## 4. 学校の運営と経済

## ■ **ともに創りつづけていく学校**(ホームページから)

当校は、「すでにそこにあるもの」ではありません。ここに集う人、教員と保護者で創りあげ、うみだしていくものです。決して容易な道ではなく、様々な困難に対し知恵と力を結集し、乗り越えていかなければなりません。子どもの全人的成長を強く願う親と教員が集い、その願いをこの学校で実現するために、明確な意志を持って協力しあっていきます。

さまざまな会議、ワーキンググループにおいて、ともに感じ、考え、話し合うこと、参加している人が響きあい、ひとつの交響曲を奏でること。ひとりひとりが水平的、自律的かつ有機的であることを大切にしています。私たちは、学校という場でそんなプロセスをともに歩むことができればと考えています。

## **■ 参加費 (授業料) について** (ホームページから)

### 1. 授業料を「参加費」と呼びます

京田辺シュタイナー学校では、学校の運営のために支払うお金を授業料ではなく「参加費」と呼んでいます。この呼び方は、学校に子どもを通わせるだけではなく、保護者一人ひとりがこの学校の運営に参加し、担っていくという姿勢からきています。

2. 参加費額は在校兄弟数に配慮した定額制です

参加費金額(2009 年度、月額) 在校生 1 人家庭 51,000 円 在校生 2 人家庭 94,000 円 在校生 3 人以上家庭 118,000 円

- ※ 「親と教師がともに創りつづけていく学校」をモットーに、運営は全て保護者のボランタリーな活動によって担われている(添付資料2を参照)。
- ※ 運営資金の大半は保護者の「参加費」によってまかなわれており(添付資料3を参照)、「学校」としての公的な補助は(ユネスコからの助成金以外は)いっさい受けていない(受けられない)。

## 5. 意義と課題

- (1) 京田辺シュタイナー学校の取り組みの意義
- ・ 教育内容に関して:90 年にわたって全世界で実践が積み重ねられてきたシュタイナー 教育のカリキュラムと教育方法を土台に、ユネスコスクールとして ESD の先進的な研 究開発を行い、公教育に対して、21 世紀の日本と世界に必要な新しい教育のモデルや コンテンツを豊富に提供することができる。
- ・ **学校運営に関して**: 学校の、文字通り全てを市民――親と教師――の手で作り出し、10年にわたって持続・充実させている学校運営のあり方は、現在、全国的に取り組みが進められている「コミュニティスクール」に対しても、豊かな手がかりを提供することができる。
- ・ 明治以来、近代化・産業化のために国家的に学校を必要としてきた日本社会では、学校は「お上」によって与えられ、国民はそれを享受するものである、という意識がまだまだ強いため、「コミュニティスクール」のような試みを少数の先進的な成功事例から一般に普及させることは容易ではない。社会のなかで多くの人々が子どもたちの教育に関心をもち、学校づくりに参加するためには、どうしたらよいのか。京田辺シュタイナー学校で蓄積された経験は、その一つの答えを指し示していると思われる。
- 「地縁」(地域型コミュニティ)と「志縁」(テーマ型コミュニティ)とを「子縁」によってつなぐこと!

### (2) 直面している課題

- ・ 「学校」としての実績を積み重ね、ユネスコスクール加盟承認のような社会的評価も得 つつあるにもかかわらず、教育行政の公的な枠組みに入ることができない。
- ・ そのため、公的な教育予算からの支援をいっさい受けることができないのみならず、義 務教育段階の子どもたち (1~9 年生) は居住地の公立小学校・中学校に学籍のみ置か せてもらい、「不登校児」の扱いでシュタイナー学校に通っている。通学の際、交通機 関の学割も受けることができない。高校授業料無償化も対象外。
- ・ 日本では学校法人になるハードルがきわめて高く、学校教育法第1条に該当する学校を 市民がつくることは、ほとんど不可能である。神奈川県と北海道の2校のシュタイナー 学校は構造改革特区を利用して特区学校法人になっているが、これは特区のパートナー となる自治体が廃校舎を提供することにより、学校設置基準をクリアできたためである。 しかし大都市近郊に位置する京田辺市には、そのような余地もニーズもない。
- ・ 各種学校ないし専修学校として公的な枠組みに入る可能性も模索しているが、1条校よりもハードルは低いものの、これも校地の自己所有要件や、義務教育段階の子どもの学籍の問題などがネックになって、困難である。
- ・ 運営資金のほとんどが保護者の「参加費」のみによってまかなわれているので、経済的 には大変苦しい状況が続いている。
- ・ 認定 NPO になりたいが、現状では運営資金における保護者の「参加費」の比率が高いため、相対的に寄付金比率が低くなり、また学校運営という活動の性質上、対価性のあるサービスを提供していると見なされ、国税庁の基準を満たすことが困難である。

## (3) どのような支援が必要/可能か

- ・ **NPO立学校の設置要件や設置基準を緩和**し、市民が公的な枠組みのなかで義務教育段階の子どもの学校を創設、運営できるようにすること。
- ・ 学校教育の公的基準の重要性は充分理解するが、数量的な基準で市民、NPO の活動を 最初から制限してしまうのではなく、実績のある活動を事後的、質的に評価することに よって、教育分野における市民のエネルギーをもっと活かすことができないか。
- NPO立学校も税額控除の対象となるよう、認定NPOの幅を広げること。

## 京田辺シュタイナー学校

た。2001年に全日制の学校になり、現在は小学1年生から高校 ドイツの哲学者ルドルフ・シュタイナーの教育理念に基づく学校を 作りたいと願う親と教師が集まり、1995年に土曜クラスを始めまし 3年生(12年生)まで約250名が在校しています。

## 12年間一貫教育

長期的な視点で子どもの成長を捉え、真の力を引き出す学校

ぎます。高等部では、教科ごとに専門の教員や外部講師による授 かれています。 初等・中等部では一人の担任が8年間継続して受 け持ち、一人ひとりに寄り添って成長を見守ります。高等部の担 任は、8年生までの過程をふまえてクラスやカリキュラムを引き継 業が行われ、工芸・芸術・農業・福祉体験など様々な分野の実 習も多く盛り込まれます。教員たちは、様々な機会に生徒たちが自 の初等・中等部と9年生から12年生までの4年間の高等部に分 京田辺シュタイナー学校の12年間は、8年生(中学2年生)まで ら考え行動することを促し、その手助けをしています。

## ユネスコスクール加盟校

ユネスコスクールは1953年、ユネスコ憲章に示された理念を学校現 場で実践するために発足しました。現在日本ではESD(持続発展教 2010年、本校はNPO法人の教育機関として日本で初めて加盟校と 育)の推進拠点校・研究開発校としての役割を期待されています。 なりました。本校の12年間の体系的なカリキュ

ラムは ESD の考え方とも重なるユニークな実践 例として注目を集めており、他の加盟校との交流 も盛んに行われています。



## Member of UNESCO Associated Schools

## ルドルフ・シュタイナー (1861-1925)

を創立。シュタイナーの理念は、教育以外にも医療・農業・経済な ど様々な社会的実践の場で今も生かされています。シュタイナー学 活躍。1919年、ドイツに自由ヴァルドルフ学校(シュタイナー学校) 校は現在、世界の65カ国に広がり、約1000校が運営されています。 オーストリア生まれの哲学者。ゲーテ研究家、著作家、講演家として 2010年「シュタイナー教育友の会」(Friends of Waldorf Education) 調べ

## 成長段階に合わせた カリキュラム

内面を変容させていきます。日々の 子どもたちは年齢によって在り方や 学びが子どもの成長を助けるよう、 それぞれの成長段階に合わせた カリキュラムと授業方法を 実践しています。

## シュタイナー 教育

## 豊かな体験とともに

園芸など手足を動かすものや、音 楽・美術などの芸術科目、実習が多 く含まれています。またあらゆる数 カリキュラムには、手仕事・木工・ 科においても体験を伴う授業 が展開されます。

## 卒業に向けて

果を発表する機会を持ちます。自分 り組んだ個々の研究のプロセスと成 の興味のあるテーマにじっくり向か 12年生では、1年以上をかけて取 い合うことで、生徒一人ひとりが 内面的な成長を遂げ、卒業 を迎えます。

## 学習と成長について教科ごとに 詳しい文章を作成し、一人ひとり の成長を願った詩とともに 渡しています。

毎年、年度の終わりには、1年の

国の文化に出合うことで、世界に

対する視野を広げます。交換留 学や文通・訪問などの国際交

流も行っています。

日本語とは異なる言語の質や他

2つの外国語 1年生から

手紙による通信簿

毎朝行われる1時間40分のメイン エポック授業

続していっくいと学びます。イメージを賜 レッスンでは、同じ教科を3~4週間連 らませながら話を聴いたり、テーマに関 する活動を重ねることで、子どもたち が実感を持って学ぶことのできる 授業を行っています。









Member of UNESCO Associated Servoils

# 自分でつくる数科書ーエポックノート

リなどを通して、教科の内容を深め、学び取っていきます。それらをま 教科書はありません。子どもたちは先生の語る話やクラスでのやり取 とめたノートには、子どもたちの学習の成果があらわれています。



子さしてい

4年[古事記]

[世界史]

8年[地球学] 10年[数学]

11年[文学]

10年[人類学]

京田辺シュタイナー学校の目指すもの

す。希望を持って未来のあるべき姿を思い描く力、思い描いた未来 に対して今できることを行動に移す力。この学校を巣立つ子ども たちが、その両方の力を持って新しい社会を創っていく人間にな 世界で起こっている事柄に対して共感や関心を持ち、自分は何を なすべきかを考え、そして実際に行動できる人間の育成を目指しま ることを願っています。

## 未来に向けた取り組み

2010年、本校は開校10周年を迎えました。新たな10年に向かつ て、教育の充実に一層努力を重ねます。

- 高等部の施設、カリキュラムの充実を推進します。
- ・シュタイナー教育の実践を通じて、地域の子育て活動に貢献して
- 日本におけるシュタイナー教育の確立を目指します。
- 2014年までの「国連持続可能な開発のための教育の10年」の 取り組みを深化させるべく、ユネスコスクール加盟校として他校 との交流を活発に行っていきます。



い覧へださい

携带HPも

〒610-0332 京都府京田辺市興戸南鉾立94 **53**0774-64-3158 **53**0774-64-3334 Thttp://ktsg.jp/

⊠info@ktsg.jp



特定非営利活動法人 京田辺シュタイナー学校

2010年6月制作





## 添付資料1 京田辺シュタイナー学校 2010年度 学校概要

## 施設

70 HA			
教室	1 2	教員室	1
オイリュトミー練習室	1	事務室+保健室(畳スペース)	1
演習室(実験・調理室)	1	トイレ・男子用	2
ホール	1	・女子用	2
木工室	1	手洗い場	2
理科準備室	1	フリースペース	1

## 生徒数 249名

## 2010年4月現在

1年	21名	7年	18名
2年	24名	8年	27名
3年	17名	9年	22名
4年	25名	10年	19名
5年	26名	11 年	17名
6年	19名	12 年	14名

## 教職員数

## 2010年4月現在

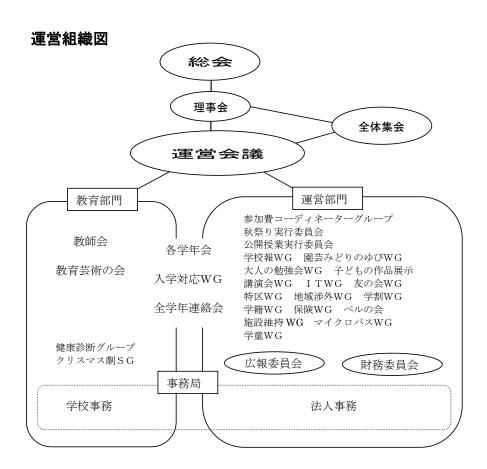
	177777	•		=,	
担	任	1~8年 高等部(9、10年) 高等部副担任・担当		8名 2名 5名	
専	任	高等部 理科 2名 社会 1名 数学 1名 国語 2名 英語 1名 演劇 1名 演劇 1名 (本育 1名 本音等部担任・副担任は専任が兼任しています。 ※オイリュトミーは音楽と兼任があります。	専 科	オイリュトミー オイリュトミーt <sup>®</sup> アニスト 国語 英部 数学 中国語 音楽 園芸 宗教 書首 体育	3 3 1 3 1 2 5 1 1 1 1 1 1 1
講	師	絵画・彫塑 (PKE) 1名 陶芸 (PKE) 1名 表装 (PKE) 1名 金属 (PKE) 2名	このほか、専科として担任が英語、手仕事、音楽、木工を担当しています。 PKEは、高等部で行われる実践的、芸術的工芸活動で、左記のような内容を専門的に学び、実体験から技術を習得する教科です。講師は専門家にお願いしています。エポック授業に外部講師をお招きす場		
事	務員	2名	] 合もありま ]	きず。	

## 添付資料2 京田辺シュタイナー学校 運営組織

### 教員と保護者で運営する学校です

京田辺シュタイナー学校は、保護者と教員を主な正会員とするNPO法人です。法人の運営は会員の合議制で行っており、理事会が全体を統括していますが、経営をまかせられた社長のような立場の人はいません。つまり、当校の保護者には一般的な学校の保護者とは違い、一人ひとりが学校の運営に積極的な関心を寄せ、支えようとする姿勢が必要です。

また、この学校は総会、理事会、運営会議など定款に定められた活動だけでなく、様々なワーキング・グループやチームと呼ばれる自発的な活動によって支えられています。関わり方は人それぞれですが、保護者の多くが、学校の運営を支えるなんらかの活動に参加しています。具体的には運営組織図を参照ください。



## 添付資料3 京田辺シュタイナー学校 経済状況

1) 損益計算書の概要(2009年度実績と2010年度予算:運営企画シートより)

	,	
	2009 年度	2010 年度
法人会費	2, 563, 000	2, 659, 000
入学金	8, 780, 000	7, 200, 000
施設維持協力金	4, 750, 000	2, 000, 000
参加費	125, 068, 796	132, 008, 000
勉強会等	3, 488, 130	2, 488, 950
寄付金	8, 279, 793	5, 100, 000
その他	1, 746, 616	8, 836, 500
収入合計	154, 676, 335	160, 292, 450
教材費等	7, 084, 879	7, 583, 849
人件費等	120, 980, 157	126, 789, 000
管理費	5, 979, 875	5, 130, 820
土地賃借料	9, 400, 000	9, 400, 000
減価償却費	7, 123, 197	7, 000, 000
租税公課	6, 209, 000	5, 200, 000
その他	6, 666, 965	7, 289, 407
支出合計	163, 444, 073	168, 393, 075
損益(収入-支出)	-8, 767, 738	-8, 100, 625

<sup>(1)</sup> 今年度の専任教員の平均年収は約410万円です。

## 2) 貸借対照表の概要(2009年度末)

流動資産	55, 912, 713	流動負債	12, 986, 484
固定資産-建物	71, 625, 766	固定負債(2)	34, 550, 000
固定資産-その他(1)	23, 492, 580	正味財産(3)	103, 494, 575
資産合計	151, 031, 059	負債・正味財産合計	151, 031, 059

<sup>(1)</sup> 設備・車両等 (2)各家庭からの借入金

## 3) 運営預託金(借入金)の状況(2009年度末)

借入金総額 (153 家庭 233 人)	34, 550, 000
一家庭当たり	225, 816
生徒一人当たり	148, 283

<sup>(3)「</sup>正味財産」とは、会社など普通法人の資本に相当するもので、主に保護者や教員の寄付によって成り立っています。